

授業の具体的展開例

〈話合いの展開例〉

キャッチコピー

「坊っちゃんは大作家、
ペンネームはがんこもの?!」

T：これは誰のことか。

C：夏目漱石だと思う。

T：なぜそう思うのか。

C：「大作家」である漱石の代表作の「坊っちゃん」から。

作成者：正解

T：「ペンネームはがんこもの」とはどういうことだろうか。

C：漱石という名に関係すると思う。

作成者：漱石とは中国の故事に由来し「自分の意志を曲げないがんこもの」の意味。自分は夏目漱石の作品が好きなので、その生き方に関わって、パンフレットにしたい。

T：みんなから感想やアドバイスはないか。

C：夏目漱石の代表作を織込んでいて、分かりやすい。また、パンフレットに載せる漱石の生き方と、キャッチコピーにした名前の由来を関係付けるところがよい。

「がんこもの」は漢字で「頑固者」の方が、頑固さが伝わらないか。

作成者：検討する。

「活用」の力を育てる評価の視点

自分が伝えたいことを決め、相手に伝わるような「キャッチコピー」を考える過程で、評価し合ったり、意見を交わしたりする。その中で、「活用」の力を育てる評価として、以下の視点に留意することが大切である。

- ①伝えたいことが明確か。
- ②伝える相手を意識して使う言葉を選んだり、表現の工夫をしたりしているか。
- ③他者の視点を取り入れ、自分の考えを広げているか。

板書例

【本時の目標】

- ・効果的なキャッチコピーを考える。
- ・自分が考えたキャッチコピーについて、話合いを参考にして、より効果的なものにする。

【意見交換のポイント】

(グループ・学級で)

- ・誰についてのキャッチコピーか。
- ・キャッチコピーのどの言葉から、分かったのか。その理由は？

(作成者から)

- ・誰についてのキャッチコピーか。
- ・なぜこの人物を選んだのか。
- ・どんな点を工夫したのか。

(学級で)

- ・感想
- ・改善案

分かった場合…いっそう効果的に伝えるためにはどうすればよいか。

分からなかった場合…どういう言葉が適切か。

「活用」の力を育てる評価の工夫

紹介する人物についてのキャッチコピーを考え、グループや学級で評価し合ったり、改善案を出し合ったりすることで、効果的な言葉の使い方について考えを深めさせる。

その際、「活用」の力を育てるために、

- ① 自分は何を伝えたいのか。
 - ② 相手にどのように伝わるか。
- を他者の視点を取り入れながら主体的に考えさせるようにする。

また、各自が、学習の見通しをもつことができるように、学習の目的と各授業の目標と計画を明らかにする。

HOME

本時の流れへ

評価問題